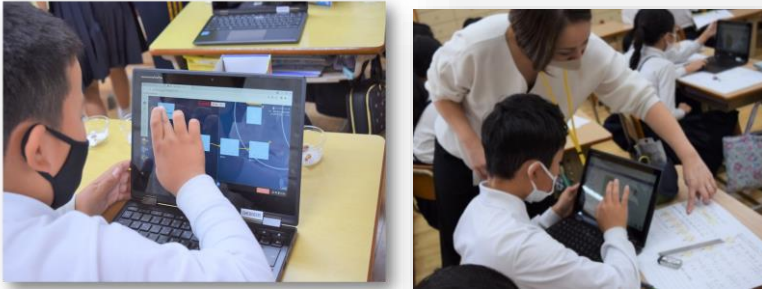


リーディングDXスクール事業【実践事例】

四国中央市立川之江小学校

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた実践の共有 1

子どものニーズに応じた個別最適な学び



多様な表現を用いた協働的な学び

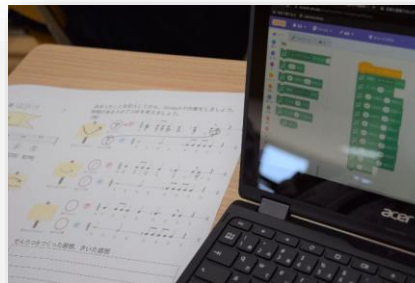


 一体的な
充実

子どものニーズに応じた個別最適な学びを進め、個々の自己肯定感を高めるとともに、様々な選択を可能にした多様な表現を用いて協働的な学びを取り入れ、個別最適で協働的な学びを一体的に進める授業改善を行っています。



生活科の観察記録



音楽科プログラミングによる作曲



体育科のマット運動

ICT支援員の協力を得ながら、教科を問わず、日常的な活用を進め、実践を共有することで、よりよい取組にブラッシュアップしていこうとしています。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

四国中央市立川之江小学校

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた実践の共有 2

ICTを活用した授業実践をクラウド上で実践した資料の共有

月	教科	教材名	写真（子どもの様子なども）	リンク	活用方法	児童の様子
4月	社会	わたしたちの県（都道府県）		https://wordwall.net/ja/40004/templates/labelle-et-diagram	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の位置がわからない児童が多いため、線をついで場所を理解させるようにした。 ※地方ごとのものなどいろいろなものがあるが、自分で作成可能である。（無料版は5つまで） 	<ul style="list-style-type: none"> 書くよりも簡単なので、まずは都道府県の位置関係を理解させるようにした。線で結ぶだけなので、苦手意識を軽減し、楽しそうに取り組む様子が見られた。
5月	図工	絵の具でゆめちようまぼろしの花			<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品は写真を取り、ゆに挿入させた。 デジタルツールキットで作成、教案実録ソフトに入れ、テキストをピン留めし、配布した。 成果時には、上半分は名札として活用し、下半分は生徒間通信を使って、友達の良いことを伝え合った。 	<ul style="list-style-type: none"> 注目する視点を与えることで、じっくりと鑑賞する様子が見られた。作品だけではなく、上半分を掲示することで、タイトルや工夫したことを合わせて見ることができた。
5月	社会	私たちの県		https://wordwall.net/ja/40004/templates/labelle-et-diagram	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛県の市町の位置が分からない児童が多いため、線をついで場所を理解させるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム感覚で楽しみながら取り組んでいた。

単元の終わりには、授業実践を振り返り、活用方法や実際の児童の反応なども含め、クラウド上に保存し、全教職員で共有しています。活用した資料のリンクや、自作した資料のリンクも貼り、端末上ですぐに活用できるようにしています。

共有した実践の改善と充実

学年団で活用する中で、校内研修や学年団の話し合いを行い、より良い実践となるよう改善を図るようにしています。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

四国中央市立川之江小学校

【取組内容②】 オンラインでつながる 児童の意欲を引き出すオンラインLIVE授業

実感のあるオンラインLIVE授業の実施



埼玉県久喜市立砂原小学校との交流授業の様子

児童の意欲を引き出すために、他県の小学生との交流するオンライン授業を行っています。

交流では新たな気付きや、相手意識を持った発表を意識するとともに、意見交換により、新たな気付きがあり、学びを深めることができました。12月にも、実施を予定しています。



オンライン交流授業の様子

6年生がキャリア教育の一環で行う授業「歩んできた道、進んでいく道～出会い、ふれあい、夢たんけん～」では、本市出身のその道のエキスパートの方にお越しいただき聞き取り学習を行います。本年度は、東京在住のミュージシャンの方など、四国中央市では会うことのできない方とのオンラインでの交流を実施しました。

6年生が、「平和への道 ～ぼくたち、平和のメッセンジャー」というテーマではオンラインで全校に報告しました。修学旅行を通じて学んだことや、「平和な世界をつくるために自分ができること」についての考えについて、発信し、それをもとに、各学級で話し合いました。



オンラインでの発表を聞く児童の様子

リーディングDXスクール事業【実践事例】

四国中央市立川之江小学校

【取組内容④】 校務の効率化や・協働的な校内研修

フォームを活用した欠席連絡等の簡略化

保護者の携帯電話などから入力できるフォームを活用して、欠席連絡を行っています。保護者の中でしっかりと定着しており、朝のあわただしい中での電話連絡が激減し校務の効率化に大きく役立っています。参観日や個人懇談をはじめ各種会合の出席確認など、フォームを取り入れることで、業務負担の軽減につながっています。

川小 欠席・遅刻・早退連絡フォーム

○午前8時の前までに入力し、送信に必ず、送信ボタンを押してください。
 ○年費3割は減額。電話連絡をお願いします。
 ○欠席理由も欠席する場合は、送信後、「別の回答を送信」をクリックして引き続きご入力ください。
 ○場合によっては、回答後に学校から連絡させていただく場合がございます。

学年をお選びください。

1. 1年
2. 2年
3. 3年
4. 4年
5. 5年

個人懇談会の希望調査 (6月27日 月曜日 17:00までにご回答ください) ※最後に必ず、送信ボタンを押してください!

四国中央市立川之江小学校

学年をお選びください。*

1. 1年
2. 2年
3. 3年
4. 4年
5. 5年
6. 6年

オンラインを活用した保護者懇談会等



保護者懇談会においてもオンライン会議を取り入れた実践を行っています。会の中で双方向のやり取りが必要な場合は、児童の学習用端末を活用したオンライン会議を実施しました。時間がなく急に連絡が必要な場合には、大変有効な手段です。各種主任会等学校間のやり取りにも有効活用しています。

保護者とのオンライン懇談会

リーディングDX事業の研究協力校との合同研修会をオンラインで実施しました。授業参観の後、研究協議には双方向で参加し、2校の教員が協働的に研修に参加することができました。

オンラインを活用した研究授業の参観



金生第一小学校とのオンラインでの合同校内研修会

リーディングDXスクール事業【実践事例】

四国中央市立川之江小学校

【取組内容⑤】 デジタル社会を生き抜くリテラシーを持つ児童を育成するために 1

デジタル・シティズンシップ教育の先行研究



今度氏によるデジタル・シティズンシップの授業

デジタル社会を生き抜くたくましいリテラシーを持つ児童を育成することを目指し、四国中央市教育委員会の指導の下、デジタル・シティズンシップ教育の研究を進めています。日本デジタル・シティズンシップ教育研究会副代表理事の今度珠美氏に繰り返し直接ご指導いただきながら、全ての学年で授業実践を進めています。

研究会での授業公開に向けて

新たな取組であるデジタル・シティズンシップ教育の市人権・同和教育研究大会での授業公開に向けて準備を進めています。低・中・高学年において三つの授業を公開します。



低学年「みんながえがおになるつかいかたは？」



中学年「その発信、だいじょうぶ？」



高学年「ネットいじめに立ち向かう」

【取組内容⑤】 デジタル社会を生き抜くリテラシーを持つ児童を育成するために2

デジタル・シティズンシップ教育の授業公開

デジタル・シティズンシップ教育では、「傍観者（バイスタンダー）」にならず、差別に立ち向かい、具体的な行動ができる「差別に立ち向かう人（アップスタンダー）」を育てることを目的として、低・中・高学年において授業公開を実施しました。



2年生の授業では、写真を使って活動を紹介するときに、「笑顔の3（スリー）ステップ」の「一休み（立ち止まる）」「考える」「尋ねる」を大切に、みんなが笑顔になるように友だちの気持ちを考えて写真などを使うようにしていこうと、考えを深めました。



4年生の授業では、インターネット上で情報発信する際に、画面の向こう側にいる相手の気持ちを考えたり、発信内容について立ち止まって考えたりするなど、情報をより良く扱うことの大切さについて考え、人権侵害に気付き行動できるようになりたいとの考えを深めました。

5年生の授業では、ネットいじめの課題解決に向けて話し合いを深め、自分の取るべき行動について具体的に考え、差別や偏見を許さず行動しようとの思いを深めていました。「アップスタンダー」として、自信を持って行動できるように、今後もさらに心を育てていきたいと思います。

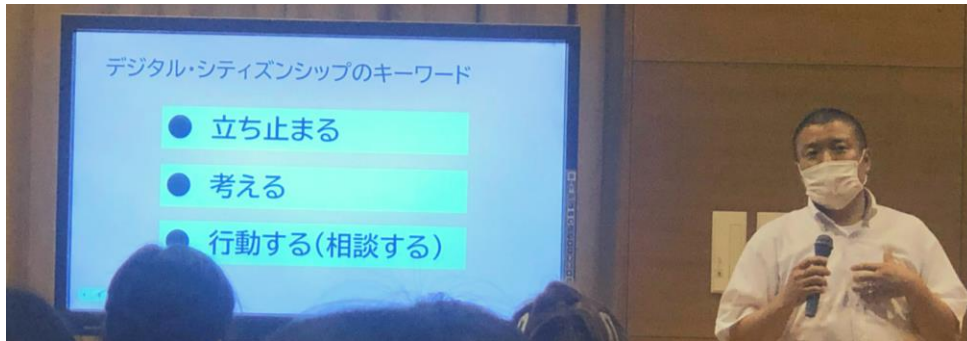


リーディングDXスクール事業【実践事例】

四国中央市立川之江小学校

【取組内容⑤】 デジタル社会を生き抜くリテラシーを持つ児童を育成するために3

保護者啓発「デジタル・シティズンシップ教育について」



デジタル・シティズンシップ教育を進めるにあたり、四国中央市教育委員会学校政策課より指導主事を講師に招き、保護者を対象にデジタル・シティズンシップについての保護者研修会を実施しました。

保護者の方は、実際に子どもの端末やスマートフォンを使いながら、子どもたちの学びを体験し、「立ち止まる」「考える」「行動する」の3ステップを確認しました。



授業実践の保護者との共有

お子さんと一緒に

- 立ち止まる
- 考える
- 行動する(相談する)

子どもが自分で考えるサポートを！！

デジタル・シティズンシップ教育の授業実践を実施した際には、必ず、授業内容を保護者とも共有しました。

子どもたちが学んだことを保護者に伝え、保護者からも感想を返していただき、保護者の協力を得ながら実践を進めています。

